箕面学園高等学校
箕面学園学校評価委員会

令和７年度学校評価及び令和８年度重点課題

Ⅰ．目指す学校像

Ⅰ－１．スクールポリシー

・初心忘るべからず
・自彊不息
・自律と感性

Ⅰ－２．アドミッションポリシー

次のような生徒の入学を期待します。
・自ら課題を見出し、自ら考え、行動する力を備えた「自主自律」の精神を持つ生徒
・感性を磨きながら多様な価値観に触れ、将来の目標実現に向けて主体的に学ぶ意欲を持つ生徒
・高い志とチャレンジ精神を持って、目標に向かって主体的かつ積極的に行動する生徒

Ⅰ－３．グラデュエーションポリシー

・集団活動を通じて他者を思いやり、自らを律し、多文化共生社会で互いの人格を尊重する姿勢を身につけようとする人材の育成。
・豊かな人間性と社会性を育む基盤として、基本的な生活習慣を確立した人材の育成
・逆境にあってもチャレンジ精神を持ち、主体的に判断し行動できる人材の育成。

○カリキュラムポリシー

・学習の継続性を維持し、多様な人々と協働しながら新たな価値を創造し、持続可能な社会の実現を目指すとともに、他者と積極的に意思疎通を図る社会性と、均衡の取れた国際感覚を身につけた人材の育成を図る。

２．令和７・８年度学校改編について

・令和７・８年度で学校を新たなものとして改編する。
１）令和７年度：２期制への移行、独立クラス（特進クラス、アスリートクラス）の設置、一般クラスでは進路実現に向けた課題（進学、栄養看護、幼児教育、美術、資格取得）を設定した。
２）令和８年度に向けた検討内容：７限（４５分）授業の導入、コース制（特進コース、アスリートコース、総合コース）への移行、総合コースでは進路実現に向けた課題（進学、栄養看護、幼児教育、美術、情報資格）の設定を検討

３．学校改編に伴う新たな目標設定

１）以下の①～③を実現する教育を推進する。
①目標に応じた学習が継続して「できる」こと
②主体性を「育む」こと
③目標を「実現する」ことで自律すること
＊令和７年度より二期制に移行し中間考査を廃止することで、授業日数を確保し、学習の質の向上を行う。従来の「定期考査直前の一夜漬け学習」から脱却し、日々の小テスト、単元テストや課題学習を通してきめ細かく学習の定着を確認する環境を整えた。
２）気づかなかった能力の覚醒を徹底的に支援し、一人一人の可能性を伸ばし続ける教育をとおして、自己肯定感を高め、未来にチャレンジする勇気を育てる。
３）基礎的、基本的な学力の養成と生徒の目標に合わせたカリキュラムの構築
４）総合的な探究指導
５）進路別指導、小論文指導、検定学習（漢検）、エリア学習（公開）
６）ＩＣＴを導入した授業展開の充実と学習の個別最適化への対応
７）改編に伴う各教科の学習の質の向上のための研鑽

４．改編後も継続して取り組むこと

４－１．生徒の規範意識の向上、基本的生活習慣の確立、服装、頭髪、マナーの向上

１）遅刻指導の徹底

２）定期的な頭髪服装検査、指導の実施

３）登下校中のマナーの向上

４）講習会の実施（自転車安全講習、携帯スマホ講習、薬物乱用防止講習など）

４－２．生徒自身の自主活動を充実させ、自立の精神を養う

１）体育祭、文化祭等の学校行事の充実

２）部活動の活性化

３）生徒会活動の充実

４－３．いじめ問題への対応

１）いじめ防止基本方針に基づく人権教育の徹底

５．各目標に係る実践状況

５－１．生徒の規範意識の向上、基本的生活習慣の確立、服装、頭髪、マナーの向上

１）遅刻指導の徹底

・令和７年度の遅刻者の１日平均は、１年２．５人、２年６．５人、３年５．９人、合計１４．９人であり、昨年度（１年６．７、２年６．１、３年７．１、合計１９．９）と比較すると合計で５．０人減少している。

・生徒指導部による遅刻指導では、１０ポイント指導を受けた生徒数１１７人（昨年度１２０人）、２０ポイント指導を受けた生徒数３１人（昨年度３２人）、３０ポイント指導を受けた生徒数６人（昨年度８人）、昼からの登校により指導した生徒数５７人（昨年度９５人）だった。

・全体の遅刻数が減少し、ポイント指導を受けた生徒も減少している。

・体調管理も含めて規則正しい生活が送れるよう指導を根気強く行っていく。

２）定期的な頭髪服装検査、指導の実施

・学期始め、期末考査時に行っている頭髪指導では、指導生徒数合計１００人（内、帰宅指導生徒７人）であった。昨年度は指導生徒合計５８１（内、帰宅指導生徒５１人）であった。指導生徒総数、帰宅指導生徒数ともに減少している。引き続き取り組んでいきたい。

・頭髪指導については現代社会の情勢を鑑みて、適切な指導ができるよう検討していく。

・服装については登校時に身だしなみを整えるよう指導し、適宜、生徒指導部による巡回指導を行った。

３）登下校中のマナーの向上

・本年度も生徒指導部を中心に登校時と下校時の指導を行った。ただ昨年度と同様、近隣の方や公共交通機関利用者よりマナーの至らない点について指摘を受けており、引き続き全体、個別への指導を行っていく。

４）講習会の実施（自転車安全講習、携帯スマホ講習、薬物乱用防止講習など）

・生徒指導部により自転車安全講習、携帯スマホ講習、薬物乱用防止講習を行った。

・人権教育推進委員会により各学年ごとに人権講習会を行った。

＊テーマ　１年：いじめと情報モラル、２年：いのち・性について、３年：ＬＧＢＴＱについて

〇１年

何がいじめにつながるのかを理解させ、相手の気持ちを考え、思いやる心を育むと同時に複雑化する情報化社会の中で、モラルと人権意識を高め、発信する内容に自己責任を持つ人間の育成を図る。

〇２年

いのちの大切さを学びながら、自分と相手を大切にする心を育成する。性に対する知識を深めて、正しい知識を身に付けさせ、正しい判断ができる人間の育成を図る。

〇３年

性別に関わらず、互いの人権を尊重し、その個性と能力を発揮できるように性自認や性的指向の多様性について正しく理解し、性の多様性を認め合う人間の育成を図る。

＊講習後のアンケートからは生徒たちが自分事として捉えていることがうかがえる。引き続き取り組んでいきたい。

＊生徒会と演劇「わたしとわたし、ぼくとぼく」※人と人の関わり方、一人一人違う生き方を認め合う事をメッセージ化した演劇を鑑賞した。

５－２．生徒自身の自主活動を充実させ、自立の精神を養う

１）体育祭、文化祭等の学校行事の充実

・体育祭、文化祭共に保護者の方に見に来ていただいた。

・スポーツ大会で実施種目を充実しました。種目によっては生徒同士の接触があり、指導する場面もありました。今年度の状況も踏まえ来年度の実施計画を検討したい。

・文化祭を模擬店中心で実施し、例年とは違った雰囲気で過ごせたのではないかと考えられる。展示・舞台の選択肢もあったが希望は少なかった。 来年度の取り組みについても今年度をベースにより良いものとしたい。

・体育祭はスカイアリーナを使用しましたが本校の規模や管理を考えると会場としては適切であった。空調もあり熱中症対策もできていたが放送設備の問題で本部からの指示が通らないということがあったので来年度は事前の対応が必要。

２）部活動の活性化

・今年度のクラブ所属生徒数は後期の部員名簿によると３６３人であった。所属率は３６３／４３５≒８３．４％（昨年度７３．３％）と１０．１ポイント増加した。

・主なクラブ実績

柔道部：新人大会近畿大会出場

バスケットボール部：ウィンターカップ大阪予選優勝、ウィンターカップ本戦出場
大阪高等学校総合体育大会３位

ハンドボール部：近畿私学大会２位、インターハイ予選北ブロック優勝、秋季総体第２位

卓球部：近畿高等学校選手権大会（シングルス）大阪府代表
大阪国際選手権（全国オープン）出場

カヌー部：インターハイ出場

美術部：全国総合文化祭大阪府代表、大阪私学美術展入賞、美術工芸甲子園入賞

ダンス部：ダンスドリル秋季大会全国大会出場

３）生徒会活動の充実

・生徒の生活の改善と向上を図る活動としてあいさつ運動を実施した。

・文化祭の運営を行った。

・オープンキャンパスでは受付補助、学校生活の説明や各ブースの補助を担当した。

５－３．いじめ問題への対応

１）いじめ防止基本方針に基づく人権教育の徹底

・１・２学期末（定期考査毎）には生徒にアンケートを取り、未然防止に努めた。いじめ防止対策委員会としていじめと認定した案件が４件あった。それぞれの案件に迅速に対応した。

６．各種学習活動の報告

６－１．エリア学習

６－１－１．特進・Ｉ類（１年）、アドバンスエリア（２、３年）

〇土曜エリア学習について

特進･･･志望校合格へ向けての勉強。７限目講座の内容の続き。

一般･･･校内模試に向けた実力養成。（Ｉ類・特進は２展開）

特進は模試および受験に向けた学習を２教科に絞ることで質の高い授業を行うことができた。また、一般は校内模試を意識した英数国３教科の学習を行った。

一般・特進を問わず欠席が目立った。一般については意識付けが引き続き課題。

〇７限授業について

今年度も特進の授業と一般の授業の２展開で行った。

特進･･･大学受験で必要な科目を受講する。

一般･･･校内模試に向けてより高い点数をとるために受講する。

〇夏期セミナー，冬期セミナー，春期セミナーについて

夏期セミナーについては前半・後半の２回実施した。

（前半）7/22～7/29　全学年対象　（後半）8/18～8/22　全学年対象

〇冬季セミナーについては２日間実施した。

12/25，12/26：特進＋Ｉ類（７限受講者）

〇春期セミナーについては５日間実施した。
3/23～3/27：特進＋Ｉ類（７限受講者）

〇外部模試（校外）：特進
Ｉ年：全統高Ｉ模試（第２回：8/17（日），第４回：1/25（日））
２年：全統高２模試（第２回：8/17（日））　全統記述高２模試（1/25（日））

〇オープンキャンパスツアー
２年特進の生徒対象に行った。
・関西大学　　８月２日（火）　Ｉ名参加
・近畿大学　　７月２７日（日）５名参加
・京都産業大学 ８月３日（水）　２名参加

〇主な合格大学
大阪電気通信大学、摂南大学、神戸学院大学、関西外国語大学

〇進路概観
・学校推薦型選抜（指定校制）と総合型選抜での受験が多く、学校推薦型選抜（公募制）と一般選抜も受験する生徒も一定数存在した。
・今年度の特進生徒は総合型選抜での受験が目立った。
・公募や一般で中堅大学を受けたが、不合格であった。エリアやセミナーなど欠席が多く、実力がつかなかったことが要因であると考える。
・指定校、総合型の入試前にはライセンスアカデミーの協力の元、多目的室，HR 教室等を使用して面接練習を行った。

６－Ｉ－２．栄養看護（Ｉ年）
希望生徒がＩ人だったため、今年度はアドバンスエリアと合同で活動した。

６－Ｉ－３．キンダー・ウェルフェアー・アート
（Ｉ）エリアでの活動報告
①エリア学習
キンダー
・関西学院短期大学　出前授業 『遊びの中で心を育てる』
・幼児体育
・季節制作（七夕・クリスマス・お正月）
・OC 企画（ゲーム・作品）
・ピアノ発表会
・食育実習（幼児食）
・保育実習
・スケッチブックシアター
・認知症サポーター 養成講座（大阪府社会福祉協議会協力）
・デイキャンプ
・ペープサート　幼稚園で発表
・手作り楽器制作

ウェルフェア
・白杖体験
・介護食体験
・季節制作（七夕・クリスマス）

・ATC　エイジレスセンター（学外）
・バリアフリー
・デイキャンプ

②7 時間目　講座
7時間目　ピアノ講座（各学年　ピアノ・楽典　各１日、計２日）
7時間目　福祉講座（毎週月曜日）

③外部実習
・箕面学園附属幼稚園　　8 月 26 日～29 日　午後　キンダー全学年
・五日間の夢体験事業（大阪福祉人材支援センター主催）
１年生　２名　　２年生　２名

④セミナー（夏・冬）
・保育検定対策講座　２・３年
・ピアノ講座　全学年

（２）全国高等学校家庭科　保育技術検定
検定実施時期　７月・12 月
３級合格者　　２年生　　７名
２級合格者　　３年生　　５名

（３）まとめ
キンダー
保育検定は昨年に引き続き、直前に対策講座を実施し、前期・後期で２・３級の合格を目指した。しかし、２期制に伴い、検定日程及びそれに伴う集中講座の実施期間の設定が難しかった。集中講座は合格率のアップも見込めるため、次年度以降の検討事項である。
例年実施している箕面学園付属幼稚園の保育実習についても、２期制により日程の設定が難しく、夏休み期間の幼稚園に短時間ずつの実習となった。実習が出来る良い環境があるので、生徒たちの良い経験となる実習は続けていきたいと思っている。日程等、次年度以降の検討事項である。
R8からの PT を見据え、学外での体験実習としてデイキャンプを実施した。今後もこのような取り組みを行う事ができれば良い体験につながると思う。
大阪社会福祉協議会実施の「五日間の夢体験」には４名参加し、進路に向けての意識づけを行うことができた。

ウェルフェア
今年度をもってこのエリア学習は終了。

６－１－４．美術、アート
①土曜エリア学習について
・箕面市役所ウインドウアートの制作
・箕面市立郷土資料館にてスケッチおよび資料収集
・国立民族学博物館にてスケッチおよび資料収集
・大阪私学美術展、美術工芸甲子園への出品作品制作
・外部講師（大阪市デザイン教育研究所）による授業を２回実施
デザインワークを通して、発想力や思考力（考える力）の育成を図った

②土曜エリア学習以外の活動
・箕面市役所ウインドウアート第３弾の設置（9 月 17 日〈水〉）
・箕面市よりウインドウアート制作に対する感謝状を拝受

・大阪私学美術展の搬入・搬出作業に参加

【まとめ】
　本年度は、全国規模のコンクールにも積極的に参加し、入選する成果を収めることができました。また、昨年度末より取り組んでいる 箕面市役所「箕面アートプロジェクト」 の一環としてウインドウアート作品を制作・展示するなど、地域社会と連携した芸術活動を実践することができました。
　来年度も引き続き、コンクール出品作品の制作に取り組むとともに、地域に貢献するアート活動を展開し、生徒の創造力と表現力のさらなる向上を目指していきます。

６－Ⅰ－５．アスリート
Ⅰ.構成クラブ：硬式野球部・ハンドボール部・サッカー部・バスケットボール部・バレーボール部・柔道部

2.基本方針
　競技スポーツに必要な知識や理論を総合的に学び、アスリートとしてのスキルアップを図る。そして、スポーツを通じて心身を鍛えるとともに、自己実現に向けて努力する生徒の育成を目指す。

３．総括

①エリア学習
　基本的には各クラブにおいて活動した。また、共通講座としての「目標設定講座」を各クラブの適当な時期に実施し、生徒の意識向上につなげることができた。
　エリア学習によって活動時間が確保でき、練習試合や合同練習も実施することができることから、生徒のアスリートとしてのスキルアップにつながった。
　またエリア公開によって、個人だけでなく、学校・チーム単位での参加も増え、箕面学園を知ってもらう良い機会になっていると感じている。
　一方で、各クラブの部員数の増加や活動が活発になっていくなかで、活動場所やマイクロバスの確保など環境面での課題、難しさも感じている。

②生徒募集
　各クラブがこれまで以上に募集活動を精力的に行い、ＳＮＳなどを積極的に使用して広報活動を行った結果、昨年度と微増の生徒を確保することができた。一方で、学校評価やアクセス面、設備面等を理由に断られることも多々あり、厳しさ、難しさも感じた。女子クラブにおいては、学校の女子の総数の少なさを理由に敬遠されることもあった。また、コース制に変わることで一定の評価をしていただくこともあった。募集活動の範囲を広げるなかで、クラブによっては少人数で、指導・試合観戦・勧誘しなければならなかったので、外部指導者も含め、考えていきたい。また学校運営の寮がないことが断られる原因になったケースもあった。今後さらに各クラブの活動を充実させていくためにも、学校運営の寮の設置の検討をぜひお願いしたい。
　各クラブが募集活動を精力的に行ってきている結果、各クラブの部員数も増えてきているが、それに伴い、施設（活動場所）や施設へのアクセスの面での問題も同時に起こってくる。特にグランド使用クラブにおいては、その環境や安全面への不安などから敬遠されることもあった。環境面での課題を解消するために、校外の施設の確保や利用する際の費用のことなどを検討しなければならない。

③進路について
　今年度は、クラブ活動を通じて大阪体育大学、桃山学院大学、びわこ成蹊スポーツ大学、国際武道大学、福井工業大学、摂南大学、福岡工業大学、大阪経済大学、金沢学院大学、大阪電気通信大学、東海学院大学、宝塚医療大学、大手前大学、神戸親和大学、天理大学、上武大学などへ進学を決めた。他の生徒たちに関しても、クラブ顧問が進路について話をする時間をしっかりと持ち、それぞれが将来の目標に向けて進路を決定してくれた。スポーツ推薦や指定校推薦における志望理由書や面接などに向けて、担任の先生方やアドバンスエリアの先生方に協力していただき、それぞれ合格することができた。

④今後に向けて

部員数が増加するなかで、場所の問題など環境を整えていくことが大きな課題となっている。環境面の充実が募集に大きく影響することもあり、よりよい環境を整備する方法を考えつつ、エリアの基本方針を達成できるように、それぞれのクラブが工夫しながら活動をより　充実させていきたい。

募集面では、募集活動を早く始めたり、ＳＮＳを活用するなどして、今年度以上に募集活動も充実させていきたい。戦績をあげることが生徒の進路選択を広げるだけでなく、募集にも大きく繋がるため、戦績をあげられるように各クラブの活性化を図っていきたい。また、学校全体の生徒確保の力になっていきたい。

来年度からアスリートコースが編成されることもあり、より各クラブの活動を充実させ、進路を確保していくことが、生徒や保護者の満足度につながり、今後の募集にも大きく繋がっていくと思うので、アスリートだけではなく、全先生方のご協力を賜りながら、生徒の進路希望などを叶えられるよう指導していきたい。

６－Ⅰ－６．キャリアアップ

①土曜日エリア学習：

各選択講座ごとに教員数（11 名）に応じて班分けをし、主に班単位で生徒を掌握しました。

１）キャリア企画

毎回テーマを決め、全体講演や班単位で学ぶ場を　　設けた。

２）班別講座

担当教員１名につき１講座を考案し、実施回ごとに各班が１講座ずつ受講した。

＊実施講座内容

リバースエンジニアリングチャレンジ、タイピング講座、天まで届け、マシュマロタワー！
電話対応、解けるかな？、働く環境を適切に選ぶには、新時代に向けて、「働く」とは？
夢を叶えるためのお金について、文字を使って、思いを相手に伝えよう！、適性検査に挑戦

３）選択講座

所属生徒が４つのカテゴリから選択し、各回１～２時間の当該内容の学習時間を設定した。

＊PC 資格取得講座、漢検取得講座、基礎学力養成講座、探究力養成講座

①資格取得講座（PC 系）

タイピング技能及び Word の基本操作の習得を目標として、日本語ワープロ検定受験を想定した学習活動を行った。１年生２名が実際に日本語ワープロ検定を受験し、１名が３級に合格した。

②資格取得講座（漢字検定）

検定３級を目指した取り組みを中心に、漢検学習に囚われず日常にある文字や、伝統等にも踏み込んで学習活動を行った。

③基礎学力養成講座

現行の授業や卒業後の進路先で求められる基礎学力や、SPI、適職検査等、就職試験も視野に入れ、スタサプ学習を中心に学習活動を行った。

④探究学習講座

今後の就職、進学先で必要とされるスキルに探究力は必須であり、その過程での面接試験や専門学校での学習においても同様に探究力や探究的な視点が求められる。そのため「社会人基礎力の有力な１つ＝探究力」ととらえ、積極的自主的に学ぶ姿勢を養成した。

〇年間実施報告

特に選択講座では本年度から実施回数が大幅に増加したことを受け当初は選択講座を重点的に実施できる見通しであったが、ドリル学習的な要素の強い講座も多く、精神的なしんどさがしばしば垣間見られました。そのため、後半では単発的な企画を多めに実施しました。特に映画鑑賞を軸に、特定の分野や背景を学ぶ回は生徒教員双方から好評で、単に楽しんで観るだけの時間ではなく、考える機会となっていた様子がよく見て取れました。

各教員の総括からは「資格情報等と併行してキャリアアップでの取り組みも継続すべき」「キャリアプランニングを重点的に学ぶべき」「外で学ぶ機会をより増やすべき」「卒業生から学ぶ機会を増やすべき」等、現在のキャリア

教育の維持拡大への声も多く、本エリアでの取り組みを改編後にどう反映させるかは重要であると考えられます。

〇本年度の取り組みを通して

昨年度から実施している選択講座では、従来の単発企画に加えて選択講座に重点を置くことで継続的な学習体制を敷くことができ、一定の意識を継続的に持つ生徒もがよく見られるようになったと感じられます。しかし、その反面、単調な学習が続くことでモチベーションを維持させる取り組み（数値目標や模擬的な検定、相互発表の場等）が大切であることも確認できました。

エリア全体としては、可能な限り全体で集合する機会も設け、集団指導等を通して折に触れてあいさつやマナー、身だしなみ等就職時に求められる力についてを伝え、日頃からの習慣化の大切さを説き続けた。その結果、エリア全体での集合や、企業・専門学校ガイダンスに際してはしっかりと気持ちを引き締められる生徒は着実に増加し、講師への質問やメモを取りながら積極的に聴く生徒など、細かな姿勢に変化を感じる場面も多々ありました。

４つの選択講座に分けたことで、講座ごとの動きがより増え、担当の先生方の柔軟な対応にも支えられ、少人数単位でフットワークの軽い取り組みもより可能になりました。

参加型のファイナンシャル講座や映画鑑賞など、新たな取り組みも行い、それぞれの型にはまること無く、積極的な学びとして取り組む場面も多く観られ、次年度以降にも有用な取り組みであると考えられます。感想記入や集団で話を聴くことなど、特定の取り組みへの事前段階を通しても、学びを得た生徒が散見され、学習テーマ以外の部分にも大いに学びの要素を見出すことが出来ることも確認できました。

６－２．小論文指導・小論文講座について

〇今年度の内容

＊学研みらいの以下の教材を用いた。

＊１年生：文章の書き方講座ー説明作文・意見作文

２年生：文章の書き方講座ー体験作文、志望理由書講座

３年生進学希望生徒：志望理由書講座

就職希望生徒：課題作文「高校生活であなたが得たものについて」

＊他に２・３年生の進学希望者には放課後講座として、小論文講座を開講した。

今年度より、後期２年生小論文指導（志望理由書）を班別講座にせず、生徒を各クラスごとのままとし、担当教員を担任とその他の教員に割り振った。理由としては進路について明確になっていない生徒が大多数であり、小論文指導の時間が班別講座の担当教員と進路面談のような時間となっているケースが多くあったからである。

結果的に担任を必ずおくことで、進路についての相談の上で志望理由書に取り組むことができ、効率が良くなったことや担任が進路について把握しやすく、保護者との懇談にも役立った点があげられる。

また、その他の教員を配置することで、明確な進路を打ち出している生徒についてはスムーズに小論文指導を進めることができ、様々な視点で進路に対するアドバイス等生徒にとっては複数の意見を取り入れることができる良い機会になったと考えられる。

しかしながら､テキスト内での教員のコメント欄の記入など少し担任への負担が大きい部分は感じられた。担当教員で連携をとり役割分担することで負担を軽減するなど来年度に向けての課題が残った。

〇来年度に向けて

・説明作文、意見作文、体験作文については継続。

・７限目の学研による小論文講座が閉講となり、さらには２年生後期の志望理由書についてのテストが無くなる。そのため、生徒たちの志望理由書の作成等、教員間で連携をはかりながら対応していく必要がある。

６－３．総合的な探究学習について

・今年度の内容

＊１年生：学校を探究する

主なテーマ：箕面学園で不便なこと、バリアフリー・ユニバーサルデザインは進んでいるのか

２年生：修学旅行を探究する

主なテーマ：沖縄についてのワーク
３年生：進路を探究する

６－４．検定学習

６－４－１．漢字検定について

２０２５年度は、受験者数に対する合格率は３０％前後で推移していた。特に学年別で比較すると、２年生の合格率が高い傾向にあった。

１月実施分は、合格率２１％とやや低下したが、慣れない漢検オンラインの影響もあったと思われる。

検定前の過去問への取り組みや対策等を行った結果、合格に繋がった生徒も多くいた。今回惜しくも不合格だった生徒もあと数点で合格基準に達する状態であるため、来年度合格できるように引き続きプログレスタイムを活用した講習や対策を進めていきたい。また、来年度は、上位級（２級・準２級）への挑戦も促し、上位級の合格率も高めていきたい。大学によっては、入試の際の加点対象や金銭的な支援対象になることもあるため、先生方から、生徒への声掛けをお願いしたい。

７．生徒学校評価・生徒授業評価

昨年度に引き続き学校評価と授業評価のアンケート（Google フォームを利用）を生徒に対して実施した。

７－１．学校評価

定期考査毎に、以下の１～１０の項目について 10 点満点で評価を付けてもらい、クラス、学年毎に集計した。

１みんなが「楽しい」クラスになっていますか?
２あなたは、主体的に授業を受けて、学習できていますか?
３あなたは、自ら考え、正しく判断し、適切な行動をとることができていますか?
４あなたは、他の生徒とコミュニケーションをとることができていますか?
５あなたは、学校のルールや社会のルールを正しく理解し、行動することができて いますか?
６あなたは、「進路」に向けて準備を進めることができていますか?
７あなたは、スマホやタブレットなどで情報を適切に収集し、適切に利用できてい ますか?
８あなたは、心や体が不調なときにまわりに相談することができていますか?
９教員は生徒に親切・丁寧に対応し大事に寄り添うことができていますか?
10 教員は「いじめ」や「いやがらせ」のない学校運営ができていますか?

７－１－１．生徒学校評価の活用について

全教員が評価結果を念頭に置いて生徒と関わることでより丁寧な対応を行うことに資するものとした。

７－１－２．生徒学校評価の本年度のまとめ

本年度の評価の推移は下表の通りだった。

各学年の合計平均値）

	５月	９月	１２月	３月
１年	７９	７８．３	７９．１	７９．４
２年	８０．１	８３	８３．９	８４．６
３年	８２．１	８４．７		

平均値としてはどの学年も年度始めと比べて年度末でポイントが上がった。

７－２．授業評価

定期考査毎に、以下の観点を参考にして、各科目を 10 点満点で評価してもらい、科目、教科ごとにに集計した。集計結果については授業改善に活用した。

・教科担当は「親切・丁寧」に接し、生徒を「大事」にしているか。
・教科担当の授業はわかりやすいか。
・教科担当はタブレットを有効に利用しているか。
・授業に主体的に参加できたか。
・授業を通して学力は身についたか。

以上

令和７年度 学校関係者評価

1．学校経営・教育方針について

学校教育目標及びスクールポリシーに基づき、生徒の自主性や自律性を育む教育活動が推進されている。特に、生徒一人ひとりの個性や能力に応じた教育の実現に向け、コース制の導入やカリキュラムの見直しなど、学校改革に積極的に取り組んでいる点を評価したい。

また、学力の定着と進路実現の両立を目指し、基礎学力の養成から発展的な学習まで、生徒の状況に応じた指導体制の充実が図られている。今後も、生徒の多様な進路希望に対応した教育活動のさらなる充実を期待したい。

2．生徒指導・生活指導について

遅刻指導や頭髪・服装指導、登下校時のマナー指導など、基本的な生活習慣や規範意識の向上に継続して取り組んでいる。また、いじめ防止に向けたアンケートの実施や人権教育、学年ごとの講習会など、生徒の人権意識や他者を尊重する心を育む取り組みも評価できる。

一方で、基本的生活習慣の確立には継続的な指導が必要である。今後も家庭との連携を大切にしながら、生徒が自ら考え、適切に行動できるような指導を期待したい。

3．学校行事・生徒の自主活動について

体育祭や文化祭、部活動、生徒会活動など、生徒が主体的に参加し、仲間と協力する機会が設けられている。特に、学校行事や部活動を通して、生徒の自主性や協調性を育んでいる点は評価できる。

また、部活動では各クラブが大会等で成果を上げており、生徒の努力と教職員の指導の成果が表れている。一方で、部員数の確保や活動場所、施設環境などの課題も見られるため、今後も活動環境の整備と部活動の活性化に取り組んでいただきたい。

4．特色ある教育活動について

エリア学習では、幼児教育、福祉、美術・アートなど、それぞれの分野に応じた実践的な学習が行われており、生徒が専門的な知識や技能を身に付ける機会となっている。外部機関や地域との連携を生かした活動も充実しており、学校外での体験を通して学びを深めている点を評価したい。

また、アスリートコースでは、競技力の向上だけでなく、進路実現に向けた取り組みも進められている。今後も各コースの特色を生かし、生徒の可能性を広げる教育活動を期待したい。

5. 進路指導・キャリア教育について

キャリアアップの取り組みでは、資格取得講座や選択講座、探究学習など、生徒の興味・関心や進路希望に応じた学習機会が提供されている。また、小論文指導や志望理由書の作成指導など、進路実現に向けた具体的な支援も行われている。

生徒が自分の将来について考え、主体的に進路を選択する力を育むためにも、今後は各学年の発達段階に応じたキャリア教育の継続と、教職員間の連携による指導の充実を期待したい。

6. 学習指導・学力向上について

習熟度や進路希望に応じた講座の設置、各種検定への取り組み、ICT を活用した授業など、多様な学習機会が確保されている。また、生徒による学校評価アンケートでは、各学年とも年度当初と比較して年度末の評価が向上しており、学校の取り組みが一定の成果につながっていると考えられる。

今後も、生徒一人ひとりの学習状況を把握し、基礎学力の定着と学習意欲の向上に向けた指導を継続していただきたい。

7. 総合的な評価と今後への期待

今年度は、学校改革を進める中で、教育課程の見直しや特色ある教育活動の充実、生徒の進路実現に向けた取り組みなど、さまざまな教育活動が展開されたことを評価したい。

特に、生徒の自主性を育む教育活動や、地域・外部機関と連携した実践的な学習は、学校の特色を生かした取り組みであり、今後も継続・発展させていくことが望まれる。

一方で、部活動の活動環境や生徒募集、学習指導・進路指導における教職員間の連携など、引き続き検討すべき課題も見られる。

令和８年度においても、今年度の成果と課題を十分に検証し、生徒一人ひとりが安心して学校生活を送り、自らの可能性を伸ばし、希望する進路を実現できる学校づくりを進めていただきたい。